



立ち歩きによる 学び合いの発展に関する研究

石崎 隆

(上越市立春日小学校)



先行研究 1

- 山岡(1981)

「ほぼ同質（同能力）の児童で構成しておくこと、実験の方法・手段・分担など、みんなでも話し合いながら進める。」



先行研究 2

- 家本(1990)

「私語の中身は子ども同士による、教師の指示の正確な確認のための問いと応答。作業の準備に関する問いかけとその応答が3分の2である。」



先行研究 3

- 西川・萩原(2000)

「学び合う集団が仲良しグループ、席の近いもの同士という単純な成
因によって形成されていないこと
を示した。」



研究の目的

- クラスの大多数のグループが目標を共有したならば、立ち歩きは学びの有効な手段となりうることを明らかにする。



研究調査

- 時期：2003年5月～6月
- 対象：新潟県内A小学校 2クラス 理科
6年「動物のからだのはたらき」
「植物のからだのはたらき」
- 方法：ICレコーダーによるグループ・
個人の会話の録音、
ビデオによる行動の記録



手続き

- 自由な会話と立ち歩きの容認
- 学習目標の明確化
- 学習の場の設定（可視化）
- 教師は指示を求める質問には答えず、友達と話し合うことを促進

授業の様子

立ち歩き、他の班で相談している。



可視化の様子





分析1 立ち歩きの分類

ふざけ

- 立ち歩き先で学習課題の解決に繋がらない発言をする立ち歩き

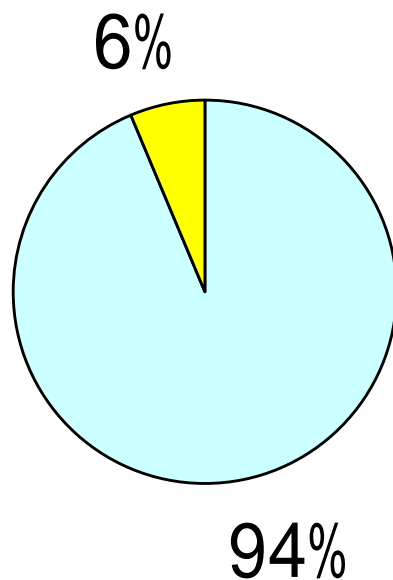


立ち歩きの分類

ふざけ

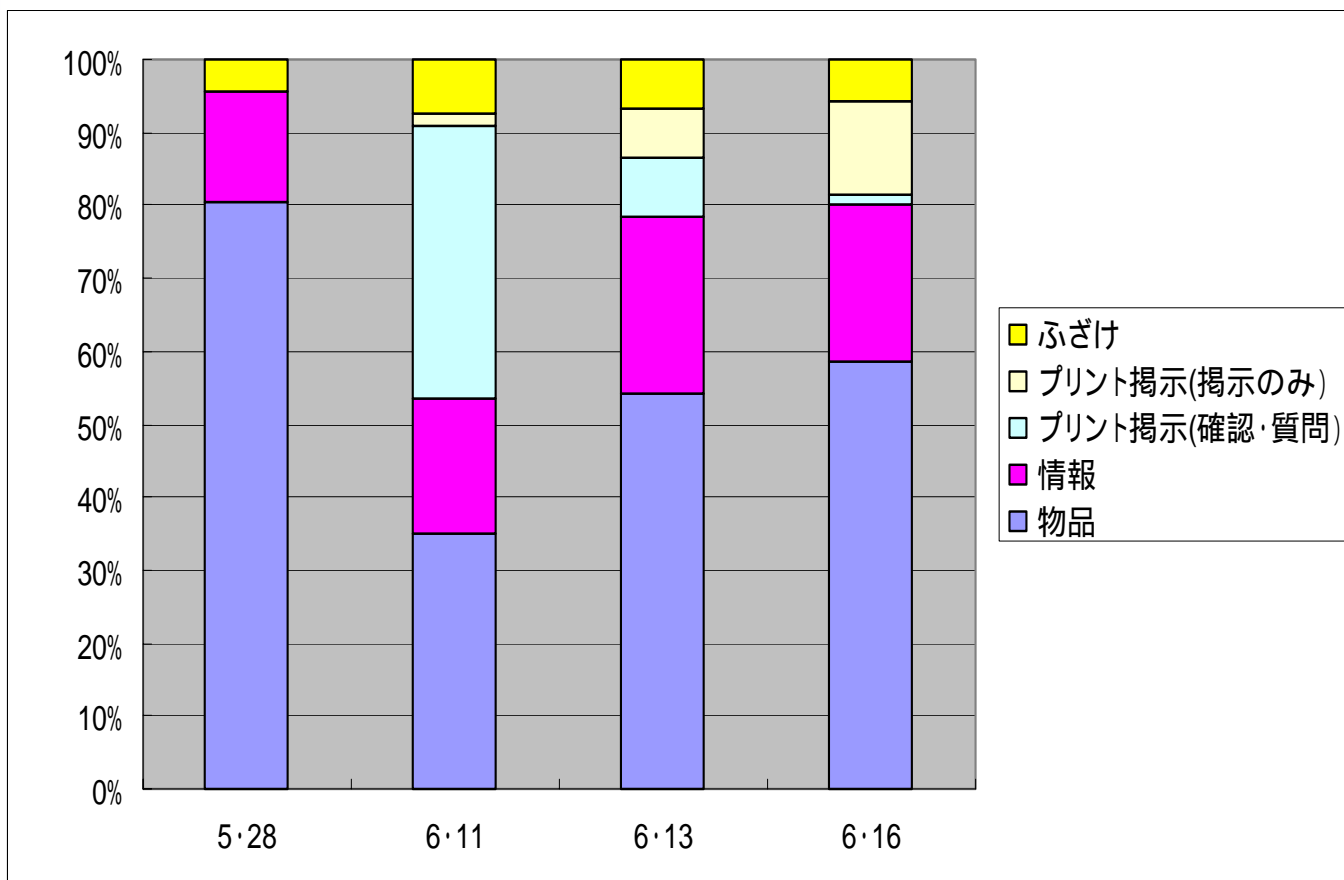
物品
情報
プリント掲示
(確認・質問, 掲示)

立ち歩きの割合

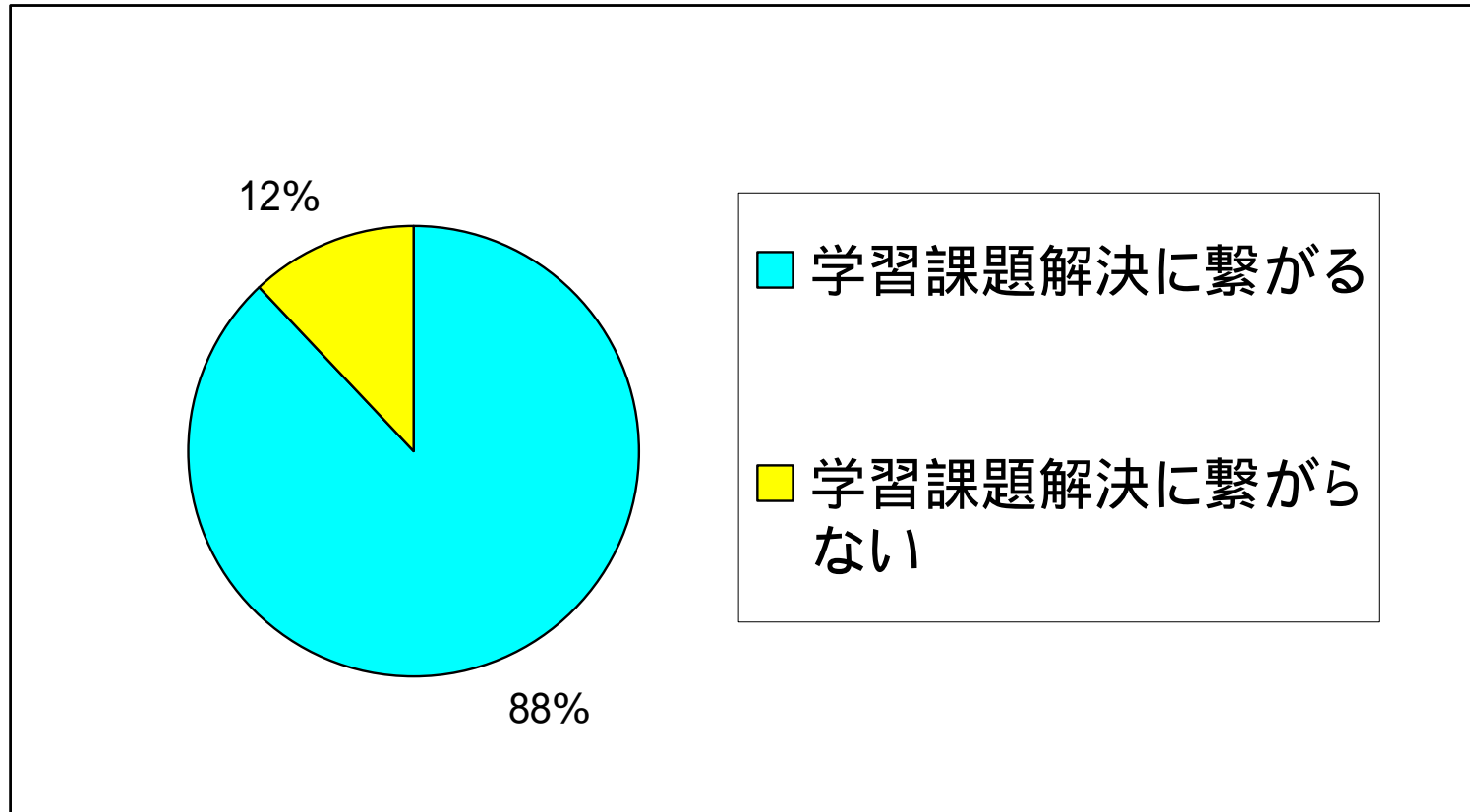


□ ふざけ以外
■ ふざけ

立ち歩き分類の推移



学習課題の解決に繋がる 立ち歩き





結果

- 立ち歩きの94%は、ふざけ以外の行動である。
- ふざけは6%であり、増加しない。
- 学習課題の解決に繋がる立ち歩きは、88%である。



分析 2 グループ会話との関係

- 1 確認共有あり・課題解決あり
- 2 確認共有あり・課題解決なし
- 3 確認共有なし・課題解決あり
- 4 確認共有なし・課題解決なし

確認共有あり・課題解決あり

- 女1：木綿の布ってどこにあんの？
- 男1：布？
- 女1：ご飯粒揉みだすの。教科書に書いてある。
- 男1：他にスポイトもいるんじゃないの。

立ち歩き

- 男2：(スポイトを見て)何すんのこれ？
- 男1：ヨウ素液をたらすの。
- 女1：お湯入れてこよ。
- 女2：40度くらいのお湯だよ。
- 女1：お風呂くらいね。

>

確認共有あり・課題解決なし

- 教師：でんぷんが、だ液によって変化するか調べよう
- 女1：ねえ、教科書みよ
- 女2：ご飯粒いるんだ。
- 女1：試験管2本ぐらいでいいよね？
- 女2：うん

立ち歩き

- 女1：スポットいるよね？
- 男3名：とっそこ走るよハム太郎・・・
- 女1：え？ >

確認共有なし・課題解決なし

< 男1 解剖顕微鏡もって戻ってくる >

- 女1 : それどっから持ってきたの?
- 女1 : 何やってんの?
- 女1 : これ (染色した葉) どこに捨てるの?
- 女1 : これ (染色した葉) 捨ててきて
- 男1 : < 無言で葉を受け取る >

立 ち 歩 き

- 男1 : 時間ピンチ?

立ち歩きと グループ内会話のカテゴリー

| | 合 計 | % |
|---------------|-----|-------|
| 確認共有あり・課題解決あり | 195 | 73.6 |
| 確認共有あり・課題解決なし | 1 | 0.4 |
| 確認共有なし・課題解決あり | 0 | 0 |
| 確認共有なし・課題解決なし | 69 | 26.0 |
| | 265 | 100.0 |



結果

- 学習課題の解決に繋がる立ち歩きの場合、立ち歩きの前後のいずれかに（両方）で、グループ全体で立ち歩きの情報の確認・共有が行われる。



結果

- 学習課題の解決に繋がる立ち歩きになるか、否かは、学習者が目標を共有しているか否かによって決定される。



分析3 立ち歩き先の阻害

- 立ち歩き先で発言する事例
（情報・ふざけ）69例
- 立ち歩きを受ける前の会話の有無
立ち歩き後の学習の状態

発言を受けた グループ内学習の進行

| | 事例数 | % |
|-----------|-----|-------|
| 会話あり・学習進行 | 39 | 95.1 |
| 会話あり・学習中断 | 2 | 4.9 |
| 合計 | 41 | 100.0 |

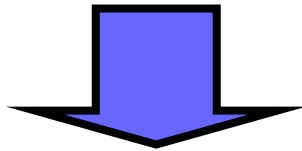


ふざけによる学習の中断

| | 事例数 | % |
|------|-----|-------|
| 学習進行 | 9 | 81.8 |
| 学習中断 | 2 | 18.2 |
| 合計 | 11 | 100.0 |

ふざけを受けた後の会話

ふざけを受ける



学習が進行

学習が中断

情報の確認・共有しない

- 女1：やわらかくしないといけないよ。
- 女2：（色が）落ちたかわかんない。
- 男1：葉を上げて見ていいかな？
<返事なし>
- 女1：この葉を入れるよ。

ふざけを受け入れる

- 男3：液を全部混ぜると変な色になるよ。
- 男1：ちょっとだけ混ぜてみよう。
- 男2：おもしろそうだね。
- 男3：全部入れないとだめだよ。
- 男3：もっといれないと。

< 実験の観察をやめて、ふざけてしまおう > >



学習が進行する事例

- 受け手がふざけを無視する
- グループの一部がふざける
- ふざけから学習に参加する

情報の確認・共有する

- 男 1 : (教科書を見ながら)
エチルアルコール使おう。
- 男 1 : 葉をお湯につけてから, エチルアルコールに入れて, ヨウ素溶液につける。
- 女 1 : じゃ, その方法でやろう。
- 男 1 : (やり取りを聞いていた男 2 へ)
これで大丈夫か?
- 男 2 : 大丈夫。

ふざけを無視する

- 男1：じゃあ，用意するか？
（男1が男3のふざけを受ける）
- 男3：ねえ，もし が（男1の）悪口を
言ったらどうする。

（話しかけられた男1もメンバーもふざけを
無視して，実験道具を集め始める）



情報の確認・共有する

- 男1：実験にいるものって？
- 男2：日光当たった葉。小さいのでいい？
- 男1：小さくていい。
< 返事あり >
- 女1：それに、ビーカー用意して。

グループの一部がふざける

- 男3 : (男2へ) エタノールをかいで。
- 男4 : 鼻、つけて。
- 男2 : **うえ、すごいにおいだ。**
- 女1 : 実験やる。
- 男1 : 葉をエチルアルコールの中に入れる？
- 男2 : **入れるの？** < 会話に戻る >

一部がふざける様子



情報の確認・共有する

- 男1：実験どっち？道具あるんの？
- 男1：この実験やればいいってことかな？
- 女1：なんで。 <返事あり>
- 男2：どっちの実験がいいのかだね。
- 女1：葉が2枚あるんだから、
どっちもできるでしょ。

ふざけから話し合いに参加

- 男 3 : お前の頭 (なでると) 気持ちいい。
- 男 1 : 使える葉っぱは 2 枚なんだから、
両方できないよ。
- 男 3 : 両方できるわけないじゃん。
- 男 1 : そうだよね。
- 男 3 : 日光に当てたやつ、当てないやつで
おしまいじゃん。



結果

- ふざけによって学習が中断されることは少ない。
- 立ち歩きをされるグループが目標を共有する場合、無視するか、ふざけてもグループの会話に戻る、ふざけた子どもが立ち歩きをされるグループの目標に取り込まれる。



結論

- 立ち歩きは学びの有効な手段である。
- 学習課題の解決に繋がる立ち歩きになるか否かは、学習者が目標を共有しているか否かによって決定される。
- 立ち歩きをされるグループで目標を共有している場合、ふざけは成立しない。



結論

- クラスの大多数のグループが目標を共有したならば，立ち歩きは学びの有効な手段となりうる。



今後の課題

- 立ち歩きのみを認めた場合、学び合いがどのように行われるか明らかにする。
- 教室環境としての教師の発言と立ち歩きの関係を明らかにする。